

平成22年度

第5/5回

(集団研修)

健康と栄養改善のための女性指導者研修

実施要領

平成22年11月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

付属資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 カリキュラム（案）
- 付表－3 研修日程表（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：(集団研修) 健康と栄養改善のための女性指導者研修

英文：Group Training Program on “Women Leaders’ Training on Health Promotion and Nutrition Improvement”

(2) 受入期間

平成 22 年 11 月 9 日（火）～平成 23 年 1 月 22 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 11 月 12 日（金）～平成 23 年 1 月 21 日（金）

(4) 定員、割当国

受入人数：10 名

割当国：ベナン、ブルキナファソ、エチオピア、ガーナ、セネガル、ザンビア、ケニア、ウガンダ（下線は受入国）

(5) 類型

人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

アフリカ地域においては、ミレニアム開発目標（MDGs）にも掲げられている貧困削減が最重要課題である。しかしながら、特にサブサハラアフリカ地域では、現在も極度の貧困・飢餓による乳幼児死亡率の増加や妊産婦死亡の増加、HIV/AIDS、マラリアなどの感染症による死亡の増加が報告されており現地の人々の健康状態は悪化の一途をたどっている。

これらの国々では、国全体での栄養・健康問題に対する取組みは充分ではなく、栄養士などの人材も著しく不足している。そのため住民の栄養状況を把握する手段や栄養指導に対する十分な知見を持つ栄養士の育成が不可欠である。

また「人間の安全保障」の観点からも、これらの地域で栄養改善を核としたコミュニティにおけるヘルスプロモーション活動を促進し、女性のエンパワメントを推進できるリーダーシップをもつ女性指導者への育成が急務となっている。

本案件では、アフリカの女性指導者を対象に、コミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するために必要な様々な知識、技術、能力を習得することを目的と

する。

3. 案件目標

担当するコミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するための活動計画案が所属部署によって承認される。

4. 単元目標

- (1) 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で地域住民の栄養と健康の関係について説明できる。
- (2) コミュニティでの食と栄養の問題を分析でき、その解決のノウハウを活用できる。
- (3) コミュニティの生活環境に即した食生活・栄養改善を目的としたヘルスプロモーション活動計画案を策定できる。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「最終報告書 (案) (Draft Final Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標 (3) にかかる活動計画 (案) を作成し、コース終盤に発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、最終報告書 (案) に書かれた行動計画 (案) を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な行動計画 (案) をまとめ、帰国後3ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。JICA 帯広は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容を

フィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. コミュニティを基盤とした栄養指導、保健指導の政策（施案）、立案に従事している中堅職員（保健局の職員等）
- イ. 当該分野で3年以上の経験がある者
- ウ. 年齢45歳程度までの女性（男性は不可）
- エ. 期間が長く、冬は道路が凍結して危険なため、妊娠していないこと

(2) 各案件共通資格要件

- オ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- カ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- キ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること
- ク. 心身ともに健康なこと
- ケ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター（NRC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) NRC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) JICE

- ア. 関係者間の連絡調整
- イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、NRC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、東京国際センター（以下 TIC: Tokyo International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

TIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 5 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程

日 程	内 容
11 月 10 日（水）	集合ブリーフィング
11 月 11 日（木）	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」「日本の経済」等
11 月 29 日（月）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

東京国際センター（TIC）

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel (03) 3485-7051 Fax (03) 3485-7904

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

研修員関連情報

【資格要件】

- 1 コミュニティを基盤とした栄養指導、衛生指導の政策（施策）、立案に従事している中堅職員。（保健局の職員等）
- 2 当該分野で3年以上の経験がある者
- 3 年齢45歳程度までの女性
- 4 大学卒業者またはそれと同等の学力を有する者
- 5 TOEFL IBT200点（CBT200点/PBT533点）以上に相当する英語能力を有すること

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
1	① Ms. Baco Epouse Mama Chabi Aminatou ② D-10-07013 ③ 40歳 ④ 女性 ⑤ ベナン	① 保健省 母子保健部 栄養課 栄養監理官 ② 1年 ③ ENSP ワガドゥグ（看護・介護） ④ CCB ⑤ なし	① ・国内における栄養活動の計画及び監督 ・国内のヘルスワーカーを対象とした栄養関連の研修実施 ・年齢との関連での低体重を発見するための保育相談の実施 ② ベナンの最高水準において、栄養失調の予防活動の実現と、栄養失調管理を通じて栄養政策の責任を担う。研修と監督を通じて地方レベルでの栄養関連活動を実施する。 地域レベルではコミュニティヘルスワーカーを対象とした栄養研修を実施する。	・児童を対象とした栄養関連情報の習得 ・母親を対象とした児童の栄養に関する啓蒙活動改善のためのコミュニケーション技術の習得 ・地域でとれる食物摂取の奨励方法 * 関心の高い項目に対しての記載がないため、個人の目標より転載
2	① Ms. Some So Fatou ② D-10-07433 ③ 44歳 ④ 女性 ⑤ ブルキナファソ	① 保健省 公衆衛生・健康増進課 公衆衛生・健康増進担当官 ② 8年5ヶ月 ③ 社会・保健開発研修センター（産科・介護） ④ BBBB ⑤ 地域公衆衛生研究所（ベナン） 社会的コミュニケーション・保健指導要請'05年9月	① 健康教育の調査官である。団体、メディア関係者及び他部を対象とした研修を通して、コミュニケーションの確立と保健計画立案において他部を支援する。また団体の活動に加え、テレビやラジオでのコミュニケーションプログラムも実施する。 ② 公衆衛生・健康増進課の任務は下記の通りである。 ・全方向性と連携した健康に関する計画・実施・継続及び評価 ・効果的な公衆衛生戦略の制定 ・公衆衛生に対する活動申請の調整・実施・継続及び評価 ・環境及び食品・保健制度適応への貢献 ・食品と環境システムの管理による、国民の衛生で健康な生活の推進と貢献	主な目的は必要とされる質を習得し、日本で学んだこと応用し、我々の抱える問題の解決へ貢献することである。 * 関心の高い項目に対しての記載がないため、個人の目標より転載

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
3	① Ms. Mohmmmed Seada Ahmed ② D-10-07192 ③ 34歳 ④ 女性 ⑤ エチオピア	① オロミア州保健局 健康プログラム部 IEC専門家 ② 8年2ヶ月 ③ Kea-Med医療大学 理学士(臨床看護) ④ ABAA ⑤ なし	① 地域レベルにおけるIEC(情報・教育・コミュニケーション/BCC(行動変容のためのコミュニケーション)活動の計画、準備及び実施 ② 疾病率/死亡率、障害の削減と、地域における健康状態の改善	女性指導者のネットワークを利用して、効果的な健康増進プログラムを実施し、地域が抱える健康問題に取り組むために、女性・小児保健及び栄養に関する知識や技術を向上させたい。 (インセプションレポートより)
4	① Ms. Asiedu Agnes ② D-10-07434 ③ 43歳 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① ガーナ保健サービス スンヤニ地方保健局 リプロダクティブ・小児保健課(家庭保健) IECコーディネーター(健康増進室) ② 8年4ヶ月 ③ カトリック大学ガーナカレッジ 理学士(公衆衛生) ④ AAAA ⑤ リバプール熱帯医学学校(イギリス) 途上国におけるリプロダクティブヘルス '05年4月-6月	① ・健康教育 ・児童福祉クリニック ・家族計画サービス ・HIV/AIDS相談 ② 国家的優先順位に従った州・郡・町レベルにおける、特に一次医療に重点を置いた包括的且つ利用可能な保健サービスの提供と慎重な管理(ガーナ保健サービス) リプロダクティブヘルス・小児保健・思春期栄養及び健康増進分野の保健プログラム活動にかかる政策の策定、実施、資源動員、モニタリング、監督及び評価(家庭保健課)	人々が自己の健康を管理するのに十分な知識を習得し、良好な健康状態を楽しむことでパワーを得たと感じられるようになる手助けをすることに関心がある。
5	① Ms. Asafo Mabel Kissiwah ② D-10-07435 ③ 42歳 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① ガーナ保健サービス 健康増進部 健康増進担当官 ② 11年2ヶ月 ③ Kwame Nicrumah大学 修士(健康教育・プロモーション) ④ AAAA ⑤ なし	① ・郡及び村での健康教育及び健康増進プログラムの計画と実施 ・ラジオのトークショー、村の接見、学校教育を通しての国民の教育 ・HIV/AIDSと食品衛生に関するNGO、ヘルスワーカーの指導 ② 国家的優先順位に従った州・郡・町レベルにおける、特に一次医療に重点を置いた包括的且つ利用可能な保健サービスの提供と慎重な管理(ガーナ保健サービス) リプロダクティブヘルス・小児保健・思春期栄養及び健康増進分野の保健プログラム活動にかかる政策の策定、実施、資源動員、モニタリング、監督及び評価(家庭保健課)	全ての項目に満足しているが、特にPRECEDE-PROCEED Model(PPM),とそれ以外のコンセプトで地域の健康改善に役立つものを学びたいと思っている。またコミュニティエンバウメントにも関心がある。これは村民が自己の健康に責任を持つ可能性を与える。BCCにも関心が高い。
6	① Ms. Nagetey Abigail Yoeko ② D-10-07436 ③ 30歳 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① ガーナ保健サービス 栄養部 郡栄養担当官 ② 3年6ヶ月 ③ Public Health Training School(栄養) ④ AAAA ⑤ なし	① 村レベルでの鉄欠乏・貧血コントロール、ヨウ素欠乏コントロール、母乳哺育、ビタミンA欠乏コントロール、栄養補給を含む栄養介入プログラムの計画及び実施補助 ② 国家的優先順位に従った州・郡・町レベルにおける、特に一次医療に重点を置いた包括的且つ利用可能な保健サービスの提供と慎重な管理(ガーナ保健サービス) リプロダクティブヘルス・小児保健・思春期栄養及び健康増進分野の保健プログラム活動にかかる政策の策定、実施、資源動員、モニタリング、監督及び評価(家庭保健課)	・地域栄養 ・リプロダクティブヘルスと女性のエンバウメント

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
7	① Ms. Kihara Christine Wangui ② D-10-07115 ③ 34歳 ④ 女性 ⑤ ケニア	① 公衆衛生省 栄養課 州栄養担当官 ② 1年2ヶ月 ③ ケニヤッタ大学 理学士(食品、栄養、栄養学) ④ AAAA ⑤ なし	① ・年間活動計画、緊急時即応準備の展開、危機管理計画への貢献を含む栄養計画の調整 ・州レベルにおいて鍵となる栄養指標の報告 ・データ収集、分析及び情報報告ツールの使用に関するモニタリング及び強化 ・利害関係者との協力による栄養介入における課題の特定、記録及び解決法の探求 ・州健康管理チーム、州及び郡保健関係者フォーラム、地区運営グループを含む調整会議における栄養情報の連絡と普及 ② ケニア国民に対し、効果的な指導力を示し、公平、機敏、利用可能且つ責任ある公衆衛生サービスを提供することが使命である。 この使命の下、公衆衛生省は、個人・家庭・地域・一次医療施設における一次医療介入を通じてケニア国民が予防可能な疾病や健康被害から開放されることを理想として掲げる。	・食品加工・保存技術 ・病院における患者への食事提供 ・HIVと途上国における乳児養育
8	① Ms. Kikechi Evelyne Nasimiyu ② D-10-07116 ③ 41歳 ④ 女性 ⑤ ケニア	① 公衆衛生省 栄養課 微量栄養素プログラム担当官 ② 1年 ③ 東アフリカ・バロン大学(家政学) ④ BBAB ⑤ なし	① 1.下記を含むビタミンA補給/添加活動の調整 ・戦略に沿ったビタミンA補給/添加のモニタリング 例;日常、こどもの健康週間、小児期早期発育センター(ECD) ・国・州・地区レベルでのビタミンA補給カプセルの在庫管理及び文書化 ・微量栄養素、特にコミュニティによる強化食品の利用促進に関する州チームの能力強化 ・8州におけるビタミンA補給の監督補助 ・強化プログラムの支援の確実性を得るためのケニア食品強化連合関係者の調整 2.オペレーションズ・リサーチ ・2011年1月に実施される全国微量栄養素調査の手順構築への参加 ・適切なヨウ素添加の保証を目的とし、毎年実施されるReach Every District Approach (REDS)を利用しての食塩品質に関するコミュニティ評価の調整 ② 効果的な指導力を示し、ケニア国民に対し質の高い栄養サービスを提供する	・地域栄養 ・乳幼児養育 (インセプションレポートより)
9	① Ms. Mwasile Grace Ngoza Nachilombe ② D-10-07657 ③ 45歳 ④ 女性 ⑤ ザンビア	① ザンビア大学付属教育病院 小児科・小児保健課 栄養士 ② 10年10ヶ月 ③ 天然資源開発大学(食品学・栄養学) ④ BBBB ⑤ なし	① ・治療食の献立と準備の監督 ・介護者への栄養相談 ・アウトリーチ活動時における介護者への調理実演 ・重度の急性栄養失調管理におけるナショナルトレーナー ② 臨床ケア及び15歳未満の児童を対象とした予防サービスの提供	・地域における食物と栄養の問題分析 ・問題解決のための知識及び技術の利用
10	① Ms.Ngalombi Sarah Nakagiri ② D-10-08176 ③ 44歳 ④ 女性 ⑤ ウガンダ	① 保健省コミュニティヘルス部栄養課 上級栄養士 ② 1年 ③ マケレレ大学(食品化学/栄養 修士) ④ AAAA ⑤ なし	① ・栄養ガイドライン、政策に関して作成、遵守、配布。 ・栄養訓練マニュアルを各部門作成、回覧 ・栄養にかかわる研究のコーディネート、各セクターへ研究成果の普及 ・各県の栄養管理者への技術的な支援 ・各県レベルの栄養プログラムのモニタリングと評価への参加 ② ウガンダ国民の健康が促進され、充実した人生を送るために良好な標準的健康を維持することを保証する。	ウガンダ国民の微量栄養素状況を改善するために食事指針に基づいた的確な食品を開発したい。

平成20年度「健康と栄養改善のための女性指導者研修」コース研修カリキュラム

単位：日

科目	講義	演習	視察	討論	担当講師	講義内容
単元目標1: 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で地域住民の栄養と健康の関係について説明できる。						
日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	1.0				青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	日本の栄養政策の現状と変遷および、政策策定の基礎となる国民栄養調査について解説する。また後半は開発途上国における栄養調査のうち、主として食事調査の実践と手法について学習する。
JICAの対アフリカ保健医療協力-TICADIVフォローアップ	0.5				JICAアフリカ部	TICADIV(第4回アフリカ開発会議)で日本政府が表明した保健医療分野コミットメント(感染症対策、母子保健、保健システム強化)に基づくJICAの協力指針について解説する。
JICAの対アフリカ保健医療協力(ザンビアHIV対策の事例)	0.5				JICA人間開発部	コミュニティにおける予防啓発活動とHIV陽性者のケア・サポートを中心としたJICAボランティアプロジェクト(ザンビア)の経験を基に、HIV陽性者のエンパワーメントや巻き込みについての事例を紹介し、討論する。
ヘルスプロモーション概論	0.5				コースリーダー 萩原 明子	個人の健康改善と地域全体の健康改善を考えるには個人のみならず地域社会全体での健康改善のための環境づくりが不可欠である。このような視点からヘルスプロモーションの概念が生まれ、1990年代にはProcede-Proceed Modelなどが紹介され先進国、途上国双方で注目されている。この概念は途上国の地域栄養改善などに特に有効であり、この手法をつかって地域診断と改善のための政策立案が可能である。本講義では各国の事情を踏まえながらヘルスプロモーションの概念と適用について解説するとともにコミュニティにおける「行動変容 (Behavioral Change Communications)」についても触れる。
女性のエンパワメント・リプロダクティブヘルス	1.0				JOICFP	リプロダクティブ・ヘルスについて討論し、諸事例をあげながら効果的な女性のエンパワメントのための方途について学ぶ。またJOICFPが途上国で採用している紙芝居やBCC、マギーエプロン、マグネルキットやCHW(Community health Worker)が使っている効果的なツールの利用法も紹介する。
思春期のリプロダクティブヘルス	0.5				JOICFP	ガーナでのHIV予防啓発活動の紹介をし、途上国での思春期の栄養と性の問題を考える。
女性のHIV/AIDS: 母子感染と栄養	1				早稲田大学 若杉教授	アフリカにおけるエイズの現状や母子感染について理解し、栄養に関連した分野からエイズの予防と対策について学習する。また、現場で患者に関わる女性指導者の役割と重要性について学ぶ。
HIVと栄養	1				静岡英和学院大学短期大学 木下講師	栄養士の立場からHIV/AIDS感染者に対する栄養指導の留意点および実践の方法について日本での事例を通じて解説する。実際に用いられている食事、食品などを紹介する予定としている。
女性、栄養と保健システム	1				コースリーダー 萩原 明子	アフリカにおける保健システム強化、母子保健・リプロダクティブ・ヘルス・栄養への取り組みについて概観する。その上で同分野の重要性と支援についての国際的動向とJICAの基本的な姿勢・方針を解説する。
食文化論	1				帯広大谷短期大学 名誉教授 池添 博彦	歴史的パースペクティブにおいて日本の食文化を紹介。明治維新から第二次世界大戦後、現在に至るまでの「米」の果たした役割、米について創意工夫の産物を列挙し米文化の変容・影響を説く。
アフリカと日本の食文化(学生との交流)	1	1			帯広大谷短期大学	調理を通じて研修員の有する知識や食品利用についての知見と日本の学生による食文化の交流を通じて栄養についての理解を深める。
日本の開発、食から健康を考える 生活園芸と食～恵泉女学園の取り組み	0.5	0.5	1		恵泉女学園大 谷本教授、澤登教授	日本のこれまでの開発を通じて(大学周辺の地域開発の視察も含め)、女性の健康と食事について考える。大学で実習している有機肥料を利用した家庭菜園、ソーラークッカーの紹介、また学生との食育実習を体験する。
帰国後の行動計画事例紹介	1				JICA帰国研修員	2005年度ケニアから参加した研修員による、帰国後の行動計画実施例を紹介してもらい、実施にいたるまでと実施後の様子などを報告してもらう。
地域の施設視察			0.5		JICA帯広	地域のごみ処理施設(くりりんセンター)の視察および百年記念館を訪問し、地域の環境問題、歴史をとしコミュニティ活動や食生活の改善の様子を理解する。
単元目標2: コミュニティでの食と栄養の問題を分析でき、その対策のノウハウを活用できる。						
地域栄養	0.5	0.5			食・栄養改善フォーラム 理事長 足立己幸	開発途上国における地域栄養の実際と効果的な栄養改善のための方途を食生態学に基づいて解説する。またわが国の栄養改善の経験や問題点についても昼食作りの実習を通じて学ぶ。
コミュニティエンパワメントと参加型栄養教育1、2	1.0	1.0			松本大学 教授 西田美佐 名寄市立短期大学 教授 石川みどり	開発途上国における地域住民参加型の栄養改善のヘルスプロモーション方法を講義とワークショップで学ぶ。
栄養と代謝	0.5				帯広大谷短期大学 名誉教授 池添 博彦	微量栄養素欠乏(ヨウ素欠乏症)と代謝について
栄養士の役割 栄養指導概論	1.0				帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	栄養士の役割、栄養指導の成立と変遷、21世紀の健康づくりと栄養指導、日本の食生活の現状と問題点、食事計画、食生活・栄養教育の方法と技術、栄養指導の評価、特定給食施設別栄養指導
糖尿病に関する演習・実習	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	糖尿病について。糖尿病交換表の使い方解説等。糖尿病のモデル食展示。糖尿病食の試作。
栄養素欠乏症及び改善料理試作	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	ビタミン欠乏症・ヨード欠乏症・鉄欠乏症について。ビタミンA、亜鉛、鉄、カルシウムを多く摂取可能な料理の作成。ヨードが摂取できる料理の試作。研修員の国にもある材料を使い、栄養改善のための献立作成・調理・説明・評価・討論を行う。
自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価		1.0			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	自己の適正体重・基礎代謝量・必要な栄養量を調べ、食料構成・レシピを作成、栄養計算、評価を行う。
食品の衛生・安全管理	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 教授 山崎 民子	衛生・安全管理の意義、食中毒・感染症について、ネズミ及び昆虫などの対策、事故防止、衛生管理体制、事故発生時の対応、衛生教育、安全管理
公衆栄養学		1.0			帯広大谷短期大学 教授 植田 志摩子	生活習慣病の国際比較/我が国の死亡統計に見る生活習慣病の実態/日本とアメリカの食生活指針/国民栄養調査(BMIを含め)などについて演習を交えながら理解する。
食品の保蔵と加工	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 名誉教授 池添 博彦	食品の加工理論、加工法と加工技術、及び各種保蔵法 大豆を使った加工品の紹介
食品加工・保存技術		1.0			(未定)	地場産品を使った最新の加工技術と帰国後応用可能な加工技術の習得(大豆以外のトウモロコシなどの加工、マンゴーなどのドライフルーツ加工)
単元目標3: コミュニティの生活環境に即した食生活・栄養改善を目的としたヘルスプロモーション活動の計画を策定できる。						
ヘルスプロモーションの実践的展開	1.0				増毛町役場福祉厚生課	事例を通じヘルスプロモーション推進のプロセスと促進要因、視点の持ち方などを学ぶ。また帰国後ヘルスプロモーションを推進していくための有効な方途についても触れる。
食生活改善運動の歴史と流れ	0.5				元生活改善普及員 川原 美穂恵	昭和35～45年ごろの食生活を取り巻く農家の環境、農家所得、農家住宅、衛生状況、衣生活、農民の健康問題を通じて食生活改善運動の重要性を事例を通じて学ぶ。
健康帯広21の取り組み	2	2	2		帯広市保健福祉センター	我が国の21世紀の保健政策の中心となる健康日本21の政策と現場での取り組みを紹介する。・帯広市の保健事業・母子保健事業・成人保健事業および各事業のモニタリングと評価
保健所の組織・役割と公衆衛生業務、生活習慣病	0.5		0.5		北海道帯広保健所	我が国の保健所の概要、栄養・衛生行政、栄養士業務について 栄養相談、試験検査室の視察。
エイズ予防啓発事業推進活動	0.5				アーニー出版 北沢 杏子会長	HIV/AIDSは全世界で深刻な健康問題となっているが、本講義では地域の住民に対する啓発活動事業推進のための効果的な手法をロールプレイ、パペットなどを用いた参加型手法で学ぶ。
地域医療と栄養士の役割(北斗病院)	0.5	0.5	0.5		北斗病院	病院の栄養士の役割、栄養療法の実践を院内見学を行いながら学ぶ。我が国の地域医療におけるレファラルシステムを理解する。生活習慣病について医学的見地から学ぶ(予定)。
学校給食共同調理場			0.5		帯広市学校給食調理場	小・中学校における児童生徒の栄養と給食について視察しながら学校保健の有効性を紹介する。
北海道立子ども総合医療・療育センター			0.5		北海道立子ども総合医療・療育センター	医療・保健・福祉の有機的な連携により、母子への一貫した総合的な医療・療育の有り方や、新生児医療に対する取り組み等について学ぶ。
プロジェクト形成(問題分析/目的分析/関係者分析)	1	1			北海道医療大学教授 半田 祐二郎 コースリーダー 萩原 明子	アクションプランの策定手法として、問題分析、関係者分析の演習を行い、問題系図から目的系図の作成を目指す。アフリカ、アジアでの事例をもとにどのようなアプローチが可能か模索する。
ドラフトファイナルレポート検討会及び意見交換会				3.0	コースリーダー 萩原 明子	ヘルスプロモーションの理論などに依拠しながら各研修員が本研修を通じて得た知見をもとに帰国後の行動計画を具体的に作成してもらう。またPCM手法、PPMモデルを活用し効果的に発表するための取りまとめ方について適宜助言を与える。
合計	19.0	11.0	5.5	3.0		

研修日程表(案)

日程	曜日	時間	区分	プログラム	担当	会場	備考
11/9	火			来日			
11/10	水			集合ブリーフィング		東京国際センター	
11/11	木			ジェネラルオリエンテーション		東京国際センター	
11/12	金	09:30-12:00	講義	JICAブリーフィング コースオリエンテーション	JICA帯広 萩原コースリーダー	東京国際センター	
		13:30-15:30	講義	ヘルスプロモーション概論	萩原コースリーダー	東京国際センター	
11/13	土			休日			
11/14	日			休日			
11/15	月	10:00-12:30	講義	女性のエンパワメントとリプロダクティブ・ヘルス	JOICEP	JOICEP	
		13:30-15:30	講義				
11/16	火	10:00-12:30	講義	思春期リプロダクティブヘルス			
		14:00-17:00	講義	エイズ予防啓発事業推進活動	アーニ出版 北沢杏子会長	アーニ出版	
11/17	水	10:00-16:00	講義	日本の開発、食から健康を考える	恵泉女学園 谷本教授、澤登教授	恵泉女学園	
11/18	木	10:00-16:00	講義	生活園芸と食～恵泉女学園の取組み	恵泉女学園 澤登教授、谷本教授	恵泉女学園教育農場	
11/19	金	10:30-12:00	講義	JICAの対アフリカ保健医療協力(概要と戦略)	JICA人間開発部 菊地職員	JICA本部201会議室	
		13:30-15:00	講義	JICAの対アフリカ保健医療協力(事例)	JICA人間開発部 飯野Jr専門員	JICA本部201会議室	
11/20	土	10:00-12:30	講義	HIVと栄養	静岡英和学院大学短期大学 木下講師	東京国際センター	
		13:30-16:30	講義	女性のHIV/AIDS: 母子感染と栄養	筑波大学 若杉教授	東京国際センター	
11/21	日			休日			
11/22	月	09:30-11:00	講義	東京部分まとめ/振り返り	萩原コースリーダー	東京国際センター	
11/23	火			祝日(勤労感謝の日)			
11/24	水	10:00-16:30	講義 実習	地域栄養	NPO法人 食生態学実践フォーラム 足立理事長	みなみかぜ	
11/25	木			(移動 東京→帯広)		帯広国際センター	
11/26	金	09:30-12:00		入館式・帯広ブリーフィング		帯広国際センター	
		13:30-16:00	視察	くりりんセンター視察	くりりんセンター 長崎主任	くりりんセンター	
11/27	土			休日			
11/28	日			休日			
11/29	月	09:30-	講義	日本語講習		帯広国際センター	
11/30	火	09:30-16:00	講義 実習	課題分析、目的分析・関係者分析	萩原コースリーダー／半田教授	帯広国際センター	
12/1	水	09:30-16:00	講義 実習	課題分析、目的分析・関係者分析	萩原コースリーダー／半田教授	帯広国際センター	
12/2	木	09:15-09:45	表敬	市長表敬	萩原コースリーダー	帯広市役所	
		13:30-16:00		インセプションレポート発表会 /懇親会(16:00-)	(社)北方圏センター/萩原コースリーダー	帯広国際センター	
12/3	金	09:30-16:00	講義	日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	帯広国際センター	
12/4	土			ホームビジット			
12/5	日			休日			
12/6	月	09:00-16:30	講義 実習	食品の保蔵と加工	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12/7	火	09:30-12:00	講義	食文化論	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
		13:00-16:30	講義	栄養と代謝	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12/8	水	09:30-15:30	演習	公衆栄養学	帯広大谷短期大学 植田教授	帯広大谷短期大学	
12/9	木	09:30-15:30	講義 演習	栄養士の役割、栄養指導概論	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12/10	金			学校訪問	JICA帯広		
12/11	土	09:30-12:00	講義	食生活改善運動の歴史と流れ	元生活改善普及員 川原 美穂恵	帯広国際センター	
		13:30-16:00	講義	生活習慣病(案)			
12/12	日						

付表－3

12/13	月	10:00-16:00	講義	community empowermentと参加型栄養教育1	松本大学 西田 美佐教授 名寄市立大学 石川 みどり准教授	帯広国際センター	
12/14	火	09:30-16:00	講義	community empowermentと参加型栄養教育2			
12/15	水			(移動 帯広→札幌)			
12/16	木	09:00-12:00	視察 講義	北海道立子ども総合医療・療育センター視察	北海道立子ども総合医療・療育センター	コドモックル	
12/17	金	09:30-16:00	講義	ヘルスプロモーションの実践的展開	増毛町役場福祉厚生課	札幌国際センター	
				(移動 札幌→帯広)			
12/18	土	09:30-15:30	講義 演習	自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12/19	日						
12/20	月	09:30-16:00	講義 演習	糖尿病に関する演習・実習	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12/21	火	09:30-16:00	講義 演習	栄養素欠乏症及び改善料理試作	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12/22	水	09:30-15:30	講義 演習	食品の衛生・安全管理	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12/23	木			祝日(天皇誕生日)			
12/24	金	09:00-16:00	講義 実習	学生との交流「アフリカと日本の食文化」について	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12/25	土						
12/26	日						
12/27	月	09:30-16:00	講義 演習	女性、栄養と保健システム	萩原コースリーダー	帯広国際センター	
12/28	火	10:00-12:00	実習	PCM手法、PPMモデルを活用したプロジェクト形成、運営管理	萩原コースリーダー	帯広国際センター	
		13:30-16:00	講義 実習	ドラフトファイナルレポート討論会Ⅰ・振り返り			
12/29	水			年末年始祝日			
12/30	木			年末年始祝日			
12/31	金			年末年始祝日			
1/1	土			年末年始祝日			
1/2	日			年末年始祝日			
1/3	月			年末年始祝日			
1/4	火	09:30-16:30	講義	保健所の組織・役割と公衆衛生業務	北海道帯広保健所	帯広保健所	
1/5	水	09:30-16:30	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/6	木	09:30-16:30	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/7	金	09:30-16:30	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/8	土			休日			
1/9	日			休日			
1/10	月			休日			
1/11	火	09:30-16:30	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/12	水	09:30-16:30	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/13	木	09:30-17:00	講義 実習	健康帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター	帯広市保健福祉センター	
1/14	金	09:30-16:00	講義 実習	ドラフトファイナルレポート討論会Ⅱ	萩原コースリーダー	帯広国際センター	
1/15	土	13:30-16:00		大谷短期大学国際交流センター(学生との交流)		帯広国際センター	
1/16	日			休日			
1/17	月	10:00-12:00	講義	アクションプラン実施のための工夫	元JICA研修員	帯広国際センター	
1/18	火	09:30-16:30	実習	現場実習(北斗病院)	北斗病院	北斗病院	
1/19	水	09:30-12:30	講義 実習	食品加工・保存技術(案)			
		14:00-16:00	実習	ドラフトファイナルレポート作成指導	萩原コースリーダー	帯広国際センター	
1/20	木	09:30-16:00	講義 実習	ドラフトファイナルレポート討論会Ⅲ	萩原コースリーダー	帯広国際センター	
		16:00-17:00		評価会			
1/21	金	09:30-		ドラフトファイナルレポート発表会 閉講式・閉講パーティ	(社)北方圏センター/国際協力機構	帯広国際センター	
1/22	土			帰国			

年度別受入実績表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	累計
応募数	10名	18名	12名	11名	12名	63名
受入数	8名	10名	8名	10名	10名	46名

2. 研修員出身国

国名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	累計
(アフリカ諸国)						
ベナン		1名	1名	1名	1名	4名
ブルキナファソ		2名	1名	1名	1名	5名
ガーナ		1名	2名	2名	3名	8名
マダガスカル		1名	2名			3名
セネガル		1名				1名
ザンビア		1名	1名	1名	1名	4名
マラウイ	1名					1名
カメルーン	1名					1名
タンザニア	2名	2名				4名
ナイジェリア	2名	1名				3名
モーリタニア	1名					1名
ニジェール	1名			1名		2名
ケニア				2名	2名	4名
エチオピア			1名	1名	1名	3名
ウガンダ				1名	1名	2名
合計	6カ国 8名	8カ国 10名	7カ国 8名	7カ国 10名	7カ国 10名	15カ国 46名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp